

# 食品栄養科における就職指導について ～ キャリア教育チームの活動成果 ～

浅津 竜子<sup>1,\*</sup>

<sup>1</sup> 鯉淵学園農業栄養専門学校 食品栄養科

(受付：2025年1月29日／受理：2025年2月4日)

**摘要：**平成21年度からスタートした「食品栄養科」では、2年間という養成期間であっても優秀な人材を輩出し就職実績を上げることは、専門学校として社会的な信頼を得るために不可欠である。そこで、平成25年度に「キャリア教育チーム」を立ち上げ、就職指導の充実を図った結果、平成25～令和5年度卒業生の11年間平均で、就職率96.9%、栄養士就職率は89.1%と高い実績を上げることができた。栄養士以外の就職先についても、以前は一般企業や事務職などが目立ったが、キャリア教育チームによる指導開始以降は、食品加工会社や調理員など栄養士養成課程で学んだ内容を活かした就職先が多くなった。これは単なる就職指導ではなく、栄養士として社会貢献するためのキャリア教育という視点を持った教育指導による成果であると言えた。

**キーワード：**栄養士、キャリア教育、就職活動支援、栄養士就職率、就職情報取得・発信

## I はじめに

本校の栄養士養成課程は、昭和45年(1970年)に「生活栄養科」を設置してから令和6年(2024年)で54周年を迎えた。設置以来、令和5年度までの卒業生は1,310名となり、栄養士資格を活かして各職域や地域で活躍している。本報では、本校栄養士養成課程で行ってきた就職指導について、記録が残る平成16年度(2004年)から令和5年度(2023年)までの19年間の就職状況のデータを元に、平成21年度からスタートさせた2年制栄養士養成課程「食品栄養科」での就職指導の成果について分析した。その間の食品栄養科における就職指導の重要な変換点は、平成25年度の「キャリア教育チーム」立ち上げである。キャリア教育チームは、これまでの就職指導を「キャリア教育」と「就職活動支援」に明確に分け、それぞれ具体的な活動方針を検討しながら着実に実施してきた。ここではキャリア教育チームが目指した就職指導とその実績について報告する。

## II 学生の就職指導体制

### 1. 生活栄養科学科(4年制)における就職指導の取り組み

「生活栄養科学科(4年制課程・平成7～20年度)」のカリキュラムは、卒業時に管理栄養士国家試験の受験資格が得られることも考慮した内容であったことに加え、栄養価計算ソフトの活用や献立作成の指導を強化するとともに、3・4年次の2年間継続して卒業論文(特別研究)に取り組みさせるなど、時間をかけて広く深く専門教育を行うものであった。その中で就職指導に関する科目としては、「進路」(2年次：1単位、3年次：2単位、4年次：1単位、計4単位)を開講し、科目担当教員が指導を行った。また、「卒業論文」(3年次：4単位、4年次：4単位、計8単位)では、各研究室の教員が専門分野の研究・調査指導と並行して就職指導も担当していた。これは、2年間を通して栄養士としての具体的な活動を学びながら、社会人としての心得も身に付ける機会となっていた。この時代は、就職指導においてキャリア教育と就職活動支援の明確な区別はなく、一体的に行っていた。

<sup>1</sup> 〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町 5965

\*キャリア教育チームリーダー

## 2. 食品栄養科（2年制）における就職指導の取り組み

「食品栄養科（2年制課程・平成21年度～）」のカリキュラムは、生活栄養科学科と比較し養成期間が半減したことから、栄養士資格取得のために必要な科目に絞ったものになっている。多くの農業系科目を削減せざるを得なかったが、農場を持つ本校の特徴を活かした「タネまきから食卓まで」を具現化する食農教育を残す目的から、「食農教育実習」を新設した。食農教育実習では、農畜産物の生産体験や農畜産物の特性を紹介する媒体作成などを行っている。更に「基礎調理学実習」や「食品加工学実習」などでは、農場産の食材を使い調理や加工を行うなどの工夫をし、食育ができる栄養士の養成を目指している。その中でも特に栄養士の主たる業務である「食事を介した栄養の指導」ができる人材の育成を目指し、給食提供のための調理技術・献立作成能力・給食施設での実践力の養成を強化している<sup>1)</sup>。

食品栄養科における就職指導の沿革を表1に示す。就職指導に関する科目として、食品栄養科の新設当時は、「職業（進路）1」（1年次：1単位）、「職業（進路）2」（2年次：1単位）を開講し、科目担当教員が就職に関する基本的な指導（主に就職活動支援）を行っていた。しかし「卒業論文」の時間を設けなかったことで、きめ細かな就職指導が難し

くなった。さらに養成期間が2年間となったことで、社会人となる心構えや他者との関わり方、社会のルールを学ぶ社会人基礎力の形成期間も短くなったことから、キャリア教育に関する指導が弱くなってしまった。そこで、この課題の改善を目的としてカリキュラムを見直し、平成24年度から「プロジェクト学習」（1年次後期：1単位、2年次前期：1単位・後期1単位）を設け、研究活動や就職指導（キャリア教育と就職活動支援）の時間にあてることとした。同時に「職業（進路）1」と「職業（進路）2」を、「職業」（1年次：1単位）に集約した。その後、平成29年度にプロジェクト学習での就職指導が充実できたことを理由に「職業」を削除し、就職指導はプロジェクト学習に一本化した。

### (1) 初期の就職指導

平成24年度の「プロジェクト学習」では、1年次後期と2年次後期を基礎学力対策や研究活動時間にあて、2年次前期を就職指導としてキャリア教育（進路研究など）や就職活動支援（模擬面接など）の時間にあてた。就職指導に取り組む中で課題としてあがってきたのは、学生個人の調理技術向上の必要性であった。養成期間が2年間となったことで調理技術を上げるにも通常のカリキュラム内での取り組みでは不十分であり、工夫が必要であった。そこでキャリア教育の一環として調理技術検定<sup>2)</sup>を立ち上げることとなった。

### (2) キャリア教育チーム立ち上げの経緯

食品栄養科卒業生の就職実績を表2に示す。平成22～24年度卒業生の就職率は3年間平均で86.4%、栄養士就職率は71.4%であった。就職を希望しない者・卒業時に内定を得られず就職活動中の者が複数名いる状況であった。学生の中からはどのように就職活動をしてよいかわからないという声も目立ち始め、就職活動支援の強化が必要となってきた。そこで、キャリア教育の充実と就職活動支援（就職情報の一元管理など）の強化を目的として平成25年度にキャリア教育チームを立ち上げ、組織的な指導を開始することとなった。

キャリア教育チームのメンバー構成は、「栄養と健康」分野と「給食の運営」分野を担当する管理栄養士資格を持つ教員および分野担当の助手と

表1. 食品栄養科における就職指導の沿革

年度	沿革
平成21年	食品栄養科（2年制課程）スタート 「職業（進路）」2単位 レシコンテスト参加サポート開始
平成22年	食品栄養科1期生卒業
平成24年	カリキュラム改正 「プロジェクト学習」3単位 「職業（進路）」1単位
平成25年	キャリア教育チーム立ち上げ 2年次前期プロジェクト学習での就職指導開始 調理技術検定開始 校内企業説明会開始
平成26年	就職活動体験報告会開始
平成29年	カリキュラム改正 「プロジェクト学習」3単位 1年次後期プロジェクト学習での就職指導開始 卒業生による栄養士業務に関する講演開始
令和2年	卒業後の就業状況調査開始

表 2. 食品栄養科 就職実績

年度	卒業生数 ( 男性 ・ 女性 )	就職者数 ( 就職率 ・ 栄養士就職率 )
平成 22 年	31 ( 6 ・ 25 )	24 ( 77.4% ・ 71.0% )
平成 23 年	30 ( 4 ・ 26 )	28 ( 93.3% ・ 83.3% )
平成 24 年	35 ( 7 ・ 28 )	31 ( 88.6% ・ 60.0% )
平成 25 年	33 ( 7 ・ 26 )	31 ( 93.9% ・ 84.8% )
平成 26 年	48 ( 6 ・ 42 )	46 ( 95.8% ・ 87.5% )
平成 27 年	42 ( 10 ・ 32 )	39 ( 92.9% ・ 88.1% )
平成 28 年	31 ( 7 ・ 24 )	30 ( 96.8% ・ 93.5% )
平成 29 年	29 ( 4 ・ 25 )	29 ( 100.0% ・ 93.1% )
平成 30 年	29 ( 4 ・ 25 )	29 ( 100.0% ・ 93.1% )
令和元年	31 ( 5 ・ 26 )	30 ( 96.8% ・ 93.5% )
令和 2 年	17 ( 3 ・ 14 )	16 ( 94.1% ・ 88.2% )
令和 3 年	20 ( 6 ・ 14 )	20 ( 100.0% ・ 80.0% )
令和 4 年	29 ( 3 ・ 26 )	29 ( 100.0% ・ 89.7% )
令和 5 年	26 ( 9 ・ 17 )	25 ( 96.2% ・ 88.5% )

した。これらの分野は臨床栄養学・応用栄養学・調理学・給食管理学など対象者に合わせた食事提供に関わるものである。分野担当教員は日頃から講義や実習指導を行っており、特に調理を伴う実習では、専門分野の知識と調理に関する知識や技術以外に、グループ学習における連携方法・コミュニケーション力などの栄養士としての資質向上につながる指導も行っている。これらの科目を担当する教員および助手が連携し学生個人の学修状況を把握することで、社会が求める栄養士の能力に達するようなキャリア教育につなげる活動を行うこととし、筆者がチームリーダーとして目的達成を目指した。

### Ⅲ キャリア教育チームによる就職指導

まず、「キャリア教育」として栄養士に必要なスキルを確認することから開始した。これは栄養士としての知識・技術のほかに、現段階での生活スキルや将来設計、就職後のスキルアップ計画も大切な要素となる。次に、「就職活動支援」として栄養士の就職先を整理し、勤務先ごとに適した資質、特に理解が必要な科目、通勤圏、勤務時間、給与等に関する情報を「栄養士勤務先の特徴」として取りまとめた。これらの情報を学生に提示するとともに、学生自身が就職希望先とのすり合わせができるように適性確認欄を示した。

就職指導の時間は、平成 24 年度より 2 年次前期のプロジェクト学習の開講時間内で計画をした。また、社会的に就職活動が早期化してきたことから、平成 29 年度からは本科でも 1 年次後期のプロジェクト学習から就職先の選択につなげる内容を加えるなど、就職指導に必要と認められたことをその都度取り入れ、工夫を凝らしながら指導に当たってきた(表 1)。令和 5 年度現在のプロジェクト学習時間におけるキャリア教育チームの指導内容とタイミングを図 1 に示した。全体指導と個別指導を組み合わせ、就職活動を終えた 2 年生や栄養士・管理栄養士として活躍している卒業生、企業の人事の方々の協力を得ながら就職指導に当たっている。次に具体的な指導内容を示す。

#### 1. キャリア教育

##### (1) 調理技術向上のサポート

平成 25 年度のキャリア教育チーム立ち上げ当初から学生個人の調理技術向上と確認を最重要課題と捉え、「調理技術検定」を立ち上げ調理技術向上を図った。調理技術の確認結果は、就職指導に活用している<sup>2)</sup>。また、給食提供のための調理技術・献立作成能力の習得もキャリア教育の一環と考え、その集大成としてレシピコンテストへの参加をサポートしている。特に令和 2 年度以降、キャリア教育チーム主導で継続的に取り組ませているのは、茨城県ヘルシーメニューコンクールの

食品栄養科プロジェクト学習（イメージ・令和5年度）

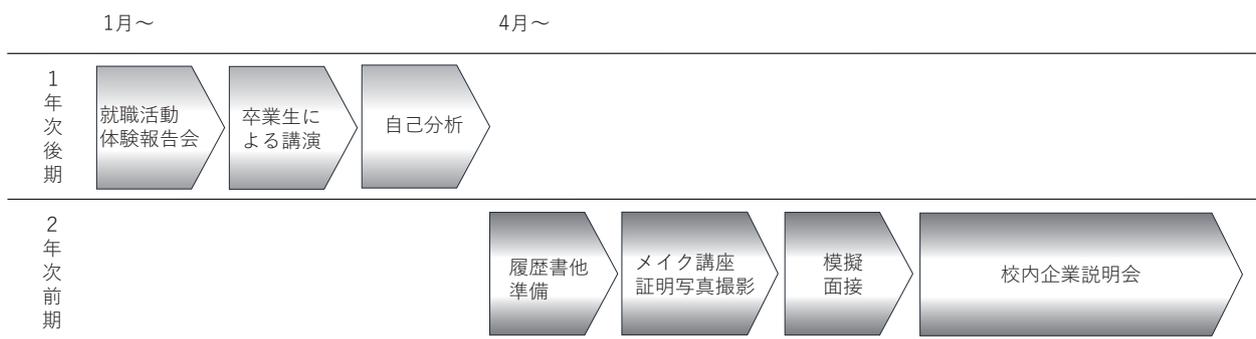


図1. キャリア教育チームの指導内容とタイミング

課題で、入賞レシピは生活習慣病予防のための食生活改善活動に活用されるなどの成果をあげている。代表的な作品として令和3年度優秀賞「韓国風うまから定食（市村）」、「野菜たっぷりワンプレートドライカレー（吉岡）」、令和5年度優秀賞「野菜たっぷり今どきランチ（檜山）」がある。また、同年の「梅香るヘルシーランチプレート（加藤）」は、鶏のから揚げやサラダのドレッシングなどに梅肉を用いることで、酸味と風味を生かしておいしく減塩でき、茨城県産の食材をふんだんに使用している点が評価され美味しおランチ部門で最優秀賞を受賞することができた。さらに、令和3・4年度は校内レシピコンテストを主催し、鯉淵学園学生食堂での食事提供を通し、個人の学習意欲向上につなげる活動を行った<sup>3)</sup>。

(2) 卒業生栄養士の活躍を伝える

平成29年度からは、1年次後期のプロジェクト学習において「卒業生による栄養士業務に関する講演」を開催している。病院・福祉施設・学校・保育園などに勤務している卒業生を招き、具体的な業務内容やスキルアップ・キャリアアップの状況、給与面、ライフスタイルなどの話をいただくことで、栄養士資格を活かした社会貢献のあり方や自身の栄養士としての将来像をイメージさせることに役立てている。

(3) 卒業生の就業情報の収集

栄養士養成の専門学校として、卒業後も継続的に社会貢献できる栄養士を育てることは重要である。一方、学生としては、就職先を選択するにあたり卒業生の就業状況が良好な企業であることは

大切な要素である。そこで、令和2年度から卒業後の就業状況調査に取り組んでいる。当初、卒業5年目と3年目の卒業生を対象に手紙による調査を行っていたが、その後、メールで調査する方法を取り、現在はLINEを活用している。本人から回答がなく、就職先の人事担当者に確認する場合もあるが、おおよその情報は得られている。

(4) 卒業後相談の実施

早期離職防止活動として、卒業1年目の卒業生を対象に相談を実施している。就業直後は栄養士としての業務に慣れる前に職場環境や生活スタイルの変化に戸惑うことが多く、些細なことで離職につながるケースが目立つ。「悩みがあったら相談に来てください・連絡をください」というスタイルでは本当に悩んでいる人は自発的には動かないと考え、こちらから定期的にメールやLINEで近況確認を行っている。既読のみの者、近況報告を返信する者、来校する者と行動はさまざまであるが、卒業後もつながっている・見守られている安心感を持ってもらうことを期待している。また学園祭では、来校する卒業生のためのブースを設けており、本科の教職員が近況報告を受ける活動も行っている。

2. 就職活動支援

(1) 学生指導

1) 就職活動方法を理解させる

まず、学生と教員間の認識の食い違いが発生しないように、「就職活動状況調査書」を用いて定期的に自身の就職希望と取り組み内容、達成率、キャリア教育チームに対する要望を記録

させ共有する方法を取り、内定獲得までサポートすることを示している。

次に、就職活動のスケジュールとして、企業の求人活動時期と学生が活動すべきタイミングを指導している。また、「就職活動に関わる各種書類について」を示し、就職活動先への提出資料（卒業見込証明書、成績証明書、健康診断書など）の発行手続き方法、書類送付時には「添え状」を付けること、受験結果は「就職試験受験報告書」で報告することを示している。併せて求人情報を得る方法として、学校に来ている求人票、ハローワークの活用、個人的な情報の取得の他、インターネットを活用した就職活動方法の解説を行っている。さらに、就職活動体験報告会・卒業生による栄養士業務に関する講演・校内企業説明会の開催など、就職活動サポート体制と内容について伝え、就職活動のイメージを持たせるよう取り組んでいる。

## 2) 自分を理解し表現させる

西川の著書<sup>4)</sup>を参考に「自己分析用の振り返りシート」を作成し、自己分析に取り組ませている。振り返りをしながら自身の強みや弱み、生活面でのこだわりを認識させ、自身の希望と適性・取り組むべきこと、就職後のライフスタイルとして優先したいこと、キャリア計画など、自分自身と向き合い記録を通して「見える化」させ、就職先の選択と面接での受け答えに役立たせている。また、経済産業省のホームページ<sup>5)</sup>から「社会人基礎力自己点検シート」と「社会人基礎力自己分析集計表」を引用し取り組ませている。この様に、自己分析を通し具体的に自身の考えや特性と向き合い記録を残すことで、取り組むべきことを可視化させている。

次に、履歴書・エントリーシート・添え状の書き方の指導を行っている。履歴書は清書を提出させ、模擬面接でも活用している。エントリーシートは就職試験会場で記入する場合やWeb上で記入する場合を想定し、代表的な質問内容を示して書き方の練習をさせ、添え状はワープロソフトを活用して作成したデータを保存させている。これらの書類は添削指導を行い、実際の就職活動時に使用させている。

## 3) 就職試験（面接・筆記）対策

面接試験対策として、個人面接・グループ面接・Web面接の模擬面接を行っている。面接担当は食品栄養科の教員が二人一組となり、質問内容に対する回答を記録しながら、身だしなみ、入室から退室までの所作なども確認指導している。また、問題点が多く見られた学生には改善指導を重ねて行い、日を改めて面接指導を行っている。

筆記試験対策は、模擬面接の待ち時間を利用して小論文の練習に取り組ませている。内容は小論文で定番の「私の職業人としての夢」、「学生時代に一番力を入れたこと」、「自己PR」の3課題で、教科書<sup>4)</sup>の掲載内容を参考にした。1課題につき400文字を30分間で取り寄せ、課題終了後に教科書を用いながら文章の練り直しをさせ、さらに添削後に返却し指導を加えている。他にSPIテスト、一般常識問題などの筆記試験対策にも取り組ませていたが、現在は担当を教育・研究チームに変更し、基礎学力対策の課題に包括した。

## 4) 就職試験準備

外部の化粧品メーカーの美容部員を招いてメイク講座を開講した。経緯として、平成25年頃に流行していた露出度が高めのファッションや派手なメイクのまま履歴書用の証明写真を撮影する学生が見受けられたことによる。この対策として、平成26年度から就職活動に適したメイクの他、スーツの着方、お辞儀の方法、姿勢、表情、男性は頭髪、眉毛、髭、ネクタイの結び方などの身だしなみを整える方法を指導いただいた。令和2年度の新型コロナウイルス流行により化粧品メーカーによる開催が休止となり、それが落ち着いて以降はインスタグラムを中心としたSNSを参考にメイクをすることが主流となってきたため、現在は取り組みを見合わせている。

## 5) 就職試験サポート

企業見学、就職試験の受験、校内就職試験の開催などに関する連絡と日程調整をしている。日程調整にあたっては、なるべく講義や実験実習の欠席につながらない日を指定することと、

他企業と就職試験日が重ならないようにすることを心掛けている。また、Web 試験を校内で受験するための会場準備と実施に関するサポートの他、希望学生には個別に試験内容に合わせた指導をしている。

## (2) 外部企業との連携

### 1) 求人情報と就職内定情報の管理

求人は、郵送、メール、電話、FAX、教職員への直接連絡などにより情報が入る。キャリア教育チームと学務課との連携によりこれらの情報を取りまとめ、ファイリングをして教室で閲覧できるよう設置している。この方法が確立できたことで就職情報を一元管理し公平に公開できるようになり、学生の就職活動に活かすことができるようになった。この情報を得て就職活動をした者を「学校紹介」、自身で得た情報を元に就職活動をした者を「自主活動」と表現している。

内定状況については、関係教職員への情報共有と取りまとめを行い、結果を外部団体からの調査の報告や「高校進路指導部へのお便り」、「過去3年間の就職先（出身高校）」、「卒業生の就職内定先報告書」、「食品栄養科卒業後の進路状況」などに取りまとめ学生募集にも活用している。

### 2) 求人先の紹介

求人情報の公開の他、2年次前期のプロジェクト学習にて「校内企業説明会」を開催している。給食関連企業および病院・福祉施設・保育園などの人事担当者を招き、求める栄養士像・業務内容・待遇・新人教育システムなどの説明をいただき、企業選択に役立たせている。人事担当者以外にも栄養士の教育担当者・本校卒業生の同行もあり、具体的な栄養士業務やキャリアアップ方法を直接確認できる機会となっている。平成25年度の校内企業説明会開始時に依頼した企業数は1社であったが、以降、徐々にその数を増やし令和5年度は15社となった。依頼する企業の選択は、待遇面の他、卒業生の就業状況が良好であることと栄養士としてのスキルアップ実績や社員教育内容などを重視しており、学生の就職希望とのすり合わせの結果か

ら決定している。

また、企業に依頼し「校内就職試験」にも積極的に取り組んでいただいている。理由として、学生にとっては学校を欠席することなく、遠方までの交通費がかからない、企業にとっては栄養士の人材確保につながる、教員としては就職活動のために欠席した学生の補講時間確保に悩まずにすむ、それぞれにメリットがある良い取り組みとなっている。

## Ⅳ キャリア教育チームによる就職指導の成果と今後の課題

食品栄養科卒業生の就職実績（表2）より、キャリア教育チームを立ち上げ組織的な就職指導を開始した平成25年度を境に比較すると、平成22～24年度卒業生の3年間平均と平成25～令和5年度卒業生の11年間平均で、就職率は10.5%増加し（86.4→96.9%）、栄養士就職率は17.7%増（71.4→89.1%）となった。栄養士以外の就職先については、平成25年度以前は、一般企業や事務員、看護助手などの職種が目立ったが、平成25年度以降は食品加工会社や調理員など、栄養士養成課程で学んだ内容を活かした就職先が多い。このように、キャリア教育チームの活動により、就職率の上昇、栄養士の特性や学修内容を活かした就職先の選択が叶うなどの成果があった。

学生個人の志望を捉えること、企業の人事との情報共有、校内企業説明会の開催などがうまくかみ合う体制が整ったこと、筆者らキャリア教育チームメンバーが幅広い栄養士の就職先について理解できるようになってきたこと、さらに単なる就職指導ではなく長く栄養士として社会貢献するためのキャリア教育という視点を持った計画的な教育指導を行ったことにより、成果が上がったと考える。中でも学生個人の思い描く栄養士としての将来像と現状の調理スキルを模擬面接や調理技術検定の結果から確認できるようになったこと、各就職先での卒業生の就業状況が確認できるようになったことが大きな成果につながったと考える。情報を整理し取りまとめること、記録をすることで学生の希望と企業の求人内容をつなぐ役目ができるようになった。

大規模な学校ではキャリアサポートセンターなどで専門の職員が就職指導を行うため、本校のように

栄養士養成担当の教員がキャリア教育や就職活動支援をすることは稀有な事例となる。しかし栄養士の先輩である私たちが指導をすることのメリットとしては、社会で本当に必要とされるスキルを熟知しているということと、現場で活躍している栄養士・管理栄養士とのつながりがあることが挙げられる。キャリア教育チーム立ち上げ以来、栄養士の資格を活かして就職したいと考え入学してくる学生たちのために、きちんと栄養士として就職をさせるという意識で活動してきた。その成果は栄養士の求人数や食品栄養科の学生募集にもつながっていると考える。今後も学生1人1人と栄養士が活躍する各企業と丁寧に向き合い、社会に必要な「食事を介した栄養の指導」ができる人材を養成すべく取り組んでいきたい。

本報は、筆者が報告した就職状況<sup>1)</sup>について、その背景や取り組みを具体的に示したものである。今後の就職活動支援体制やサポート方法に関する検

討材料の一助としていただければ幸いである。

## V 引用文献

- 1) 浅津竜子 (2022), 鯉淵学園における栄養士養成課程設置 50 年の軌跡と次の 50 年に向けて. 鯉淵学園教育研究報告 **32**: 49-56.
- 2) 浅津竜子, 新井波音, 橋本恵理, 住友かほる, 若林陽子 (2024), 栄養士養成課程学生の調理技術向上を目的とした「調理技術検定」の導入～新たな教育手法の取り組みとその評価～. 鯉淵学園教育研究報告 **34**: 15-21.
- 3) 宇佐美晶子, 浅津竜子 (2023), 学習意欲の向上を目的としたレシピコンテストの活用事例. 鯉淵学園教育研究報告 **33**: 30-35.
- 4) 西川真理子 (2011), 図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック, 株式会社化学同人, 京都府.
- 5) 経済産業省 (2021), [<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku>] (参照 2024-12-4).